診療所の事務員について

診療所だより

西表西部診療所　医師　久場 兼昂

こんにちは。

西表西部診療所の久場と申します。今回は、診療所の事務員について書かせて頂きます。

西部診療所の事務員はもともと地域在住の方々で、事務員の主な業務内容としては、医事会計があります。今年の3月に離島診療所の電子カルテ化に伴い、これまでとは全く違う医事会計システムが導入されました。八重山病院の医事会計ともまた別物であり病院でも扱える方がいない状況のため、事務員が直接メーカーと連絡をとり、医事会計の諸問題等に対応してくれています。

そのような医事会計業務だけでも大変ですが、その他にも医師や看護師のみでは手が回らない診療所の業務を手伝ってもらっています。例えば、診療所は、患者や地域住民から様々な内容の相談や問い合わせが来ますが、全てを医師看護師が受けることはできないので、事務員さんが円滑な診療につながるように電話対応や調整をしてくれています。また、物品や検体の梱包・郵送、どうしても人手が必要な急患の診療の補助、患者や来訪者の送迎など、本来であれば事務員の業務ではないことも、基本的に人が足りていないのでお願いしたりします。

医師・看護師は、八重山病院などから代理や後任を派遣することができますが、地域に住む事務員には代わりはいません。また、多くの医師・看護師は、一定期間の赴任が終われば島を去りますが、事務員は基本的には残り続け、私のような意思疎通はかりにくい医師等が外からやって来ても上手く対応しなければなりません。

私は診療所に赴任して4年目になりますが、診療所事務員はなかなか認知・理解されにくくも地域で重要な役割を果たしているなと感じつつ、離島医療を担う貴重な医療スタッフとして、今後も頼りにしていきたいと思います。

令和5年度 沖縄県総合防災訓練

10月29日（日）に八重山諸島南方沖地震を想定した「令和5年度沖縄県総合防災訓練」が行われ、当院も病院をあげて参加をしました。

今回の訓練は、大地震と大津波で多数の傷病者が出ることを想定した実災害さながらの大規模な訓練で、当院には県の災害医療派遣チーム（ＤＭＡＴ）を受け入れ、多数の負傷者が搬送された際の対応の確認等を行いました。

訓練当日（8:30～16:00 訓練終了まで）は救急室の患者受け入れを制限し、訓練関係者と許可された急患以外の病院敷地内への立ち入りを禁止させていただきました。当院をご利用の皆さまには、ご迷惑とご不便をおかけしましたが、無事に訓練を終えることができました。
ご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。

ご協力ありがとうございました。

やいまむん　沖縄県立八重山病院広報誌（令和五年12月発行）
発行／沖縄県立八重山病院
編集・企画／沖縄県立八重山病院　広報委員会
〒907-0002 沖縄県石垣市真栄里584-1
TEL:0980-87-5557（代表）FAX:0980-87-5835

沖縄県立八重山病院広報誌

やいまむん

Vol.9
2023.12

表紙写真：医事課　総合受付スタッフ

- 受付の風景
- 放射線技術科の紹介～X線骨密度測定について～
- 透析室の紹介
- 医療情報システムとバックアップ
- 診療所の事務員について
- 令和５年度沖縄県総合防災訓練（お礼）

受付の風景

医事課長　比嘉ゆみ子

八重山地域にお住まいの皆さまこんにちは。

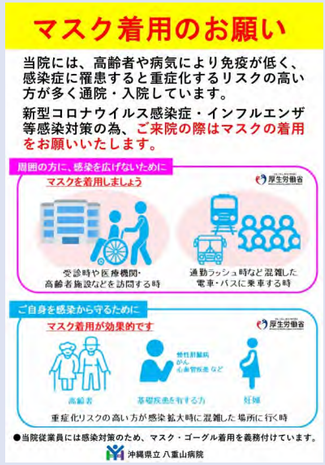
令和5年5月8日に新型コロナウイルス感染症の指定が2類から５類に下がったことで、長く続いた自粛生活からようやく解放され、石垣島にもたくさんの観光客が訪れるようになりました。また４年ぶりに四ヶ字の豊年祭が催されるなど、私たちの生活にも活気が戻りつつあります。

一方で病院の中はどうでしょうか。感染症法上のランクが下がったとはいえウイルス自体が弱まったわけでもなく、高齢者や免疫の下がった人に感染すると重篤な状態になるおそれがあるため、今でも入院患者さんの面会

制限は続いていますし、院内に入る方には全員マスクの着用をお願いしております。せっかく窮屈な生活から解放されたのに逆行しているじゃないかと思われるかもしれませんが、患者さんを守るため、どうかご理解とご協力をお願いします。

そんな病院の中でも、少しだけ風通しの良くなった部分があります。飛沫防止目的で受付に設置されていたアクリル板が撤去されたのです。相手の会話が聞き取りやすくなり、患者さん、受付職員双方のストレスが軽減されたように感じます。透明な板によって生じていた心の距離が、隔てる物がなくなったことでいくぶんか縮まったということもあるのでしょうか。その場の空気自体が前より明るく柔らかくなったような気がしています。

皆さんに親しんで頂ける受付になれるようこれからも頑張ります。



正面玄関掲示ポスター

透析室の紹介

透析室師長　新本 当昭

八重山病院透析室は1992年(平成4年)現八重山病院、院長の和氣亨先生が赴任され開設しております。開設当初は14床、5名の患者様からスタートし現在は16床59名の患者様を1日2クールで透析治療にあたっております。

八重山での人工透析治療を実施する施設は、県立八重山病院、石垣島徳洲会病院、よなは医院の３医療施設で対応しています。

八重山病院は八重山地区の地域支援病院としての役割を担っており重症患者様の受け入れや緊急透析・特殊血液浄化療法などにも随時対応しています。

R5年6月現在の八重山地域の透析患者数は八重山病院59名(腹膜透析11名を含む)、石垣島徳洲会病院50名、よなは医院67名で合計176名の患者さんが治療を受けております。透析患者数は年々増加しており(マスコミにも大きく取り上げられましたが)それに対応すべくスタッフ定数増員の問題解決は急務であります。現在八重山病院のスタッフは、医師4名、看護師12名、臨床工学技士の協力を得ながら血液浄化治療を行っております。

当院で行っている血液浄化療法は

1.血液透析(HD)、2.血液濾過透析(HDF)、3.腹膜透析(PD)、4.血漿交換(PE)、5.エンドトキシン吸着、(PMX)、6.持続緩徐式血液濾過透析(CHDF)、7.LDL吸着、8.白血球除去療法(G-CAP)、9.腹水濾過濃縮再静注法(CART)等の血液浄化療法に対応出来るよう全スタッフ日々研鑽しております。

八重山圏域での腎代替療法の必要がある患者様が安心・安全な質の高い血液浄化療法治療が受けられるようこれからもスタッフ一同頑張ります。

放射線技術科の紹介～X線骨密度測定について～

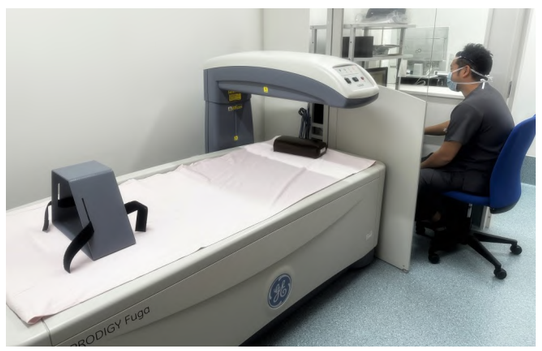
放射線技術科　通事 浩作

放射線技術科は、放射線技師13名、放射線科医1名、受付事務員1名の計15名が配置されている部署です。当科では一般撮影装置2台、移動型X線撮影装置5台、CT装置1台、MRI装置1台、X線TV装置2台、血管撮影装置1台、歯科パノラマX線撮影1台、乳房X線撮影装置１台、X線骨密度測定装置1台を保有しています。このように多くの検査装置がありますが、今回はX線骨密度測定装置について紹介させていただきます。

X線骨密度測定装置では骨を構成しているカルシウムなどの骨の密度（骨量）を測り、 骨の強度を調べる検査をおこないます。主に骨粗鬆症の診断やホルモンのバランス異常、先天性の代謝性骨疾患の診断に使われ、病態の解析に用いられます。骨密度が低下すると、骨粗鬆症という骨の中がスカスカな状態になり骨折しやすくなりますので、骨密度を測定することが重要です。閉経後、または治療により生理を止めている方や若年期生理不順のあった方 、運動不足・若年期に過度の運動をされていた方、常習喫煙・過度のアルコール摂取者などは骨粗鬆症のリスクが高いとされています。

骨密度測定装置の特徴は、極めて少ないX線を利用しているので、女性の方でも安心です。検査台に仰向けに寝るだけなので痛みもなくスピーディに検査ができます。

検査の流れは、検査室にて必要であれば下着や貴金属類をはずし、場合によっては検査着に着替えていただきます。骨密度装置の検査台に寝ていただき検査を開始します。当院では主に腰椎と股関節(大腿骨頚部)の骨密度を測定します。検査中は機械が動きますので体は動かさないようにお願い致します。特に息止め等も必要ありません。検査時間は5分～10分程度と短いので安心して検査を受けていただくことができます。



医療情報システムとバックアップ

情報システム管理室　大浜 晴美

当院では電子カルテを始めとする医療情報システムを使用しています。私たち情報システム管理室では、病院内のシステムを把握して毎日順調に使えるように管理しています。

万が一医療情報システムが停止した場合には、一刻も早く元の状態に戻し通常通り使えることが求められます。すぐに解消される不具合であれば良いのですが、システム全体に影響するような大きな障害（例えば悪質なコンピュータウィルスの感染等）の場合には、システム復旧が必要になるケースもあります。

システム復旧には、それまでに作成しておいたバックアップデータが欠かせません。最近ではスマホの大事なデータもバックアップしておく方が多いと思います。スマホ本体が故障したときは、バックアップから電話帳・写真・アプリ等のデータを復旧します。同じようなことを医療情報システムでも行います。このバックアップですが、単にデータをコピーしておいておくだけでは、いざという時に使えないケースもあるので注意が必要です。バックアップデータ中にウィルスの混在が確認されたら、せっかく準備していても復旧のために使うことはできなくなってしまいます。

次期医療情報システム更新にむけて院内では様々な検討が始まっています。バックアップ・セキュリティ対策も課題の一つです。安心安全な運用が実現できるよう検討していきたいと思います。大きなテーマでなくても、皆様が感じている日常の困りごと・不便が改善できるよう知恵や意見を出し合うことも、とても大事です。「こんなこと言ってもいいのかな」と思われるようなことの中に、大きなヒントが隠れている場合もありますので、できるできないに関わらず、まずはお話聞かせてください。

皆でよりよいシステムにしていきましょう。ご協力お願いいたします。